

「小・中連携の推進」に向けて



埼玉県マスコット
コバトン さいたまっち

西部教育事務所

はじめに

なぜ、小中連携を
推進するのですか？

そもそも小中連携
とは？



小中連携と小中
一貫の違いは？



何をすればいいの？



どんな効果があるの？



本日お伝えしたいこと

- 1 子供たちの意識
- 2 なぜ小中連携なのか
- 3 小中連携とは
- 4 小中連携のポイント
- 5 小中一貫教育の推進に向けて



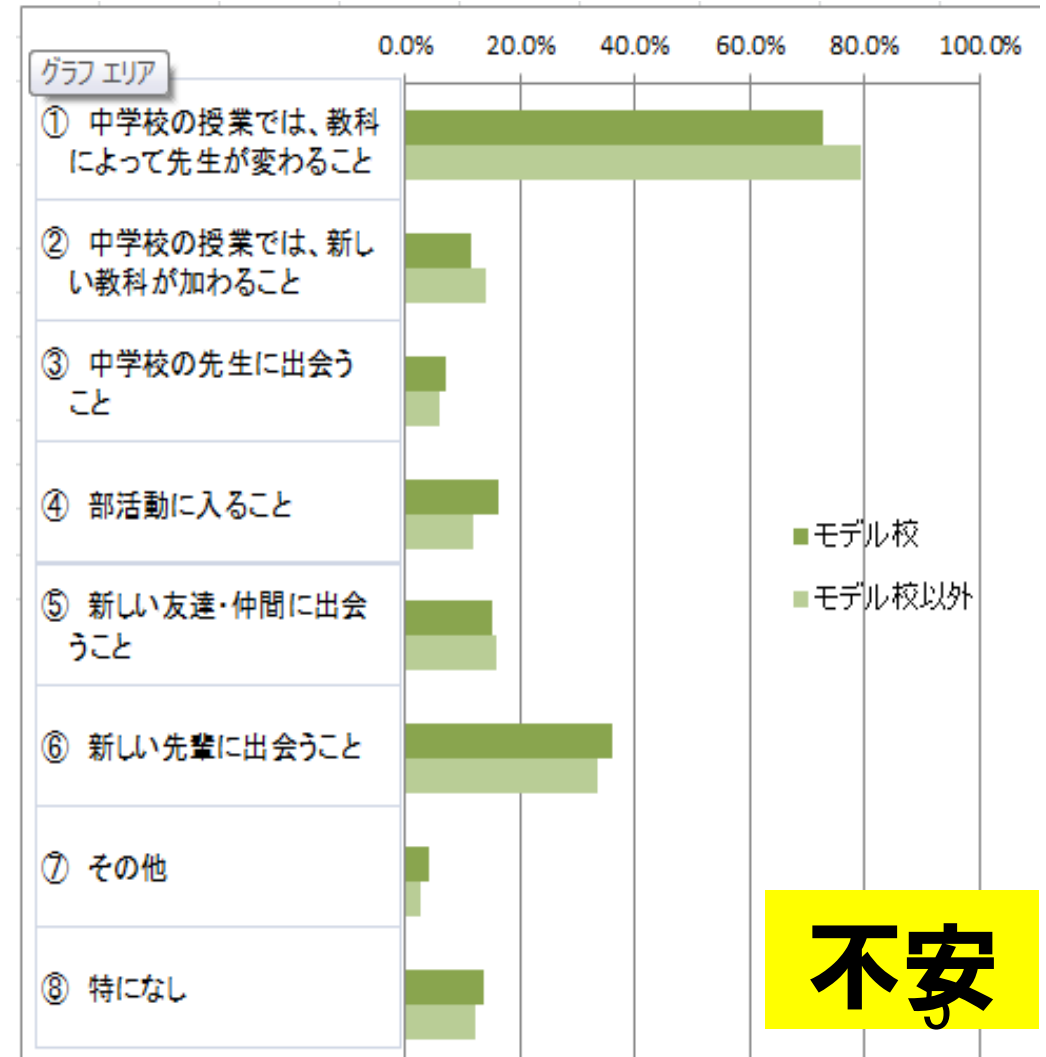
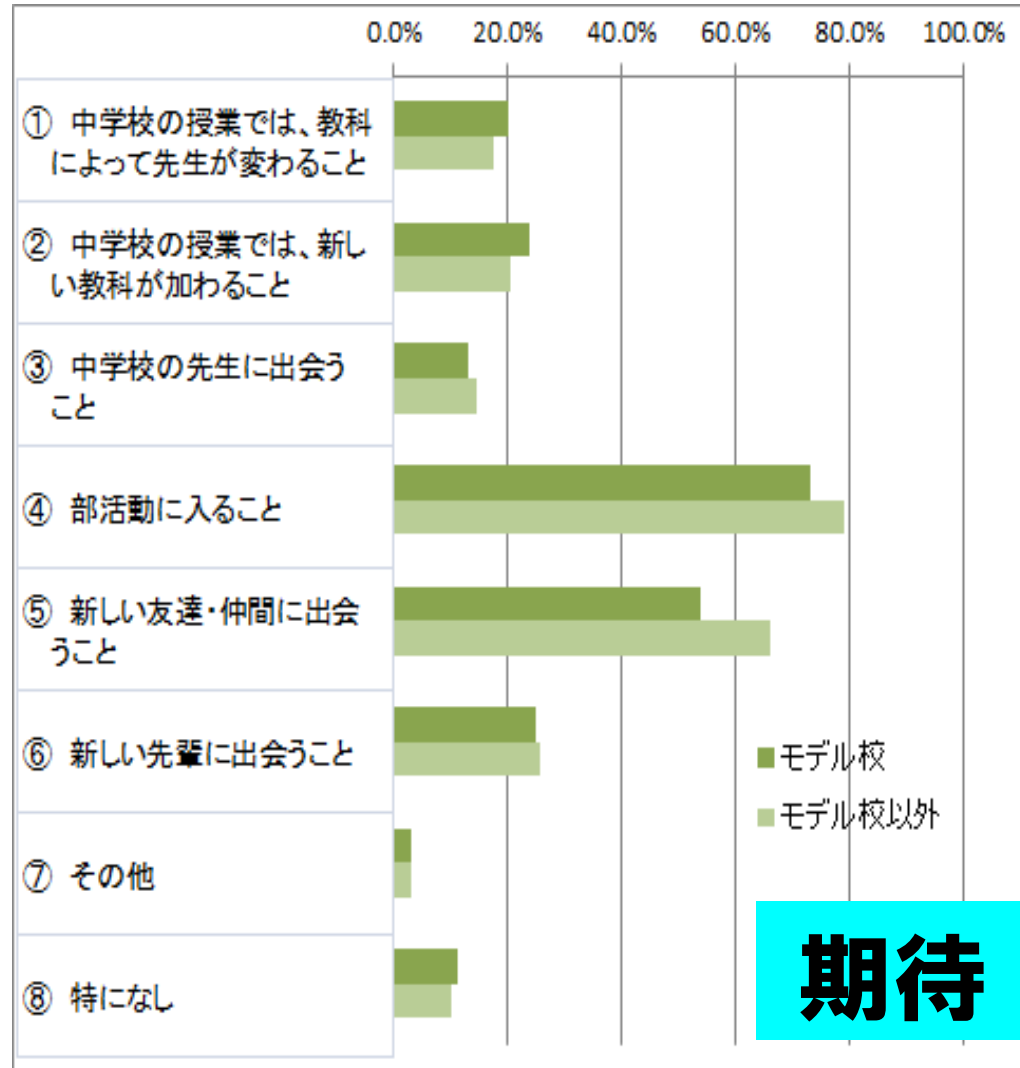
1 子供たちの意識

中学校入学前に小学生が抱く期待・不安

- ① 中学校の授業では、教科によって先生が変わること
- ② 中学校の授業では、新しい教科が加わること
- ③ 中学校の先生に出会うこと
- ④ 部活動に入ること
- ⑤ 新しい友達・仲間に出会うこと
- ⑥ 新しい先輩に出会うこと
- ⑦ その他
- ⑧ 特になし

1 子供たちの意識

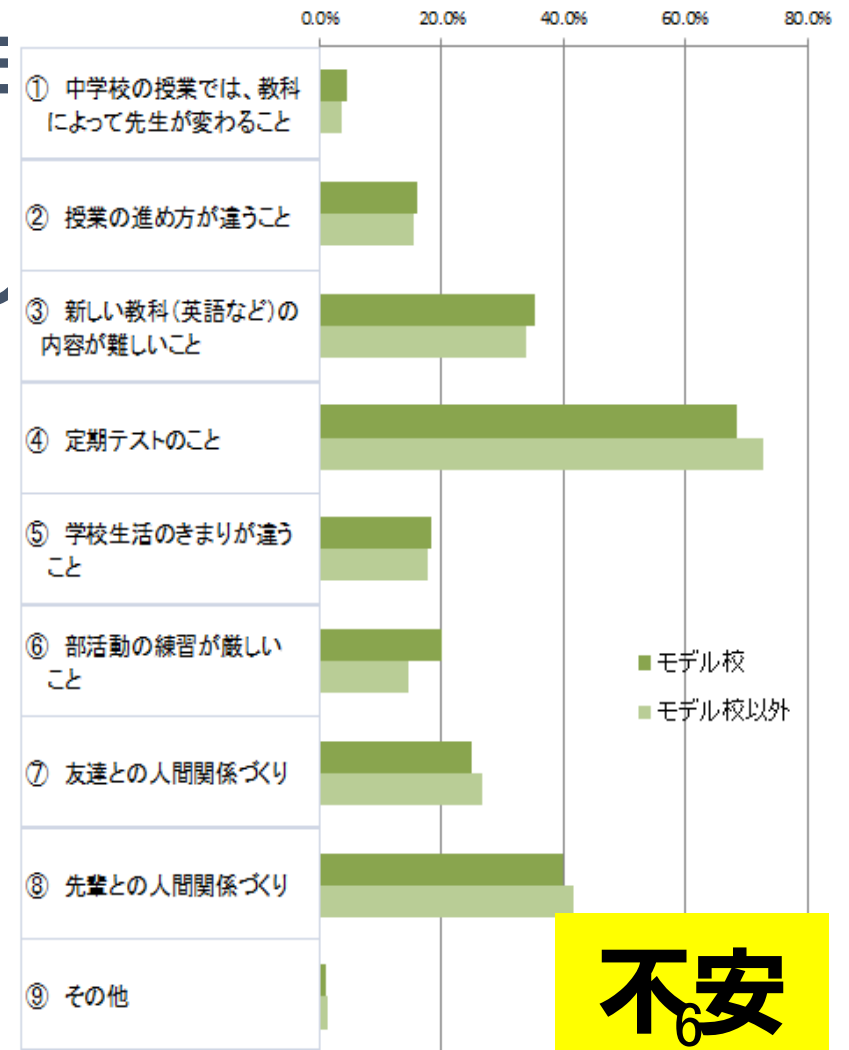
中学校入学前に小学生が抱く期待・不安



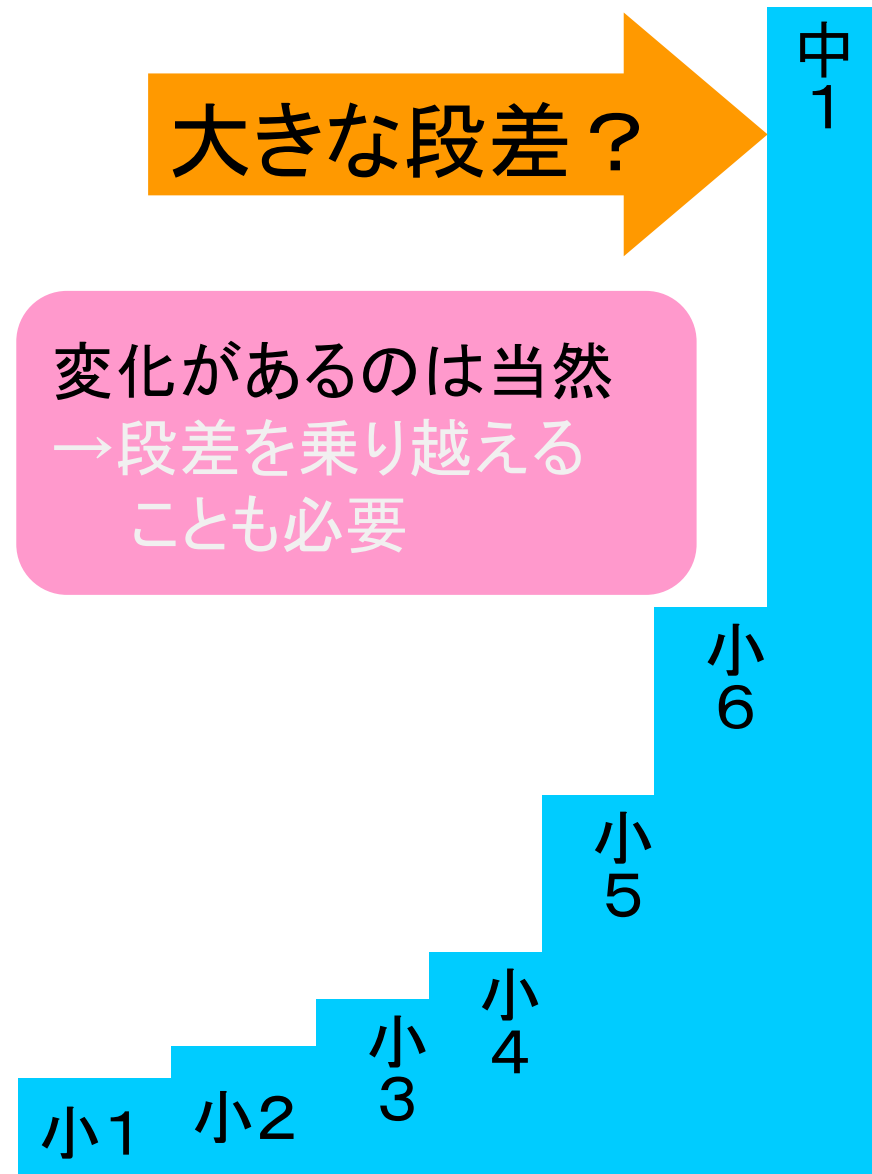
1 子供たちの意識

中学校入学後に抱く不安

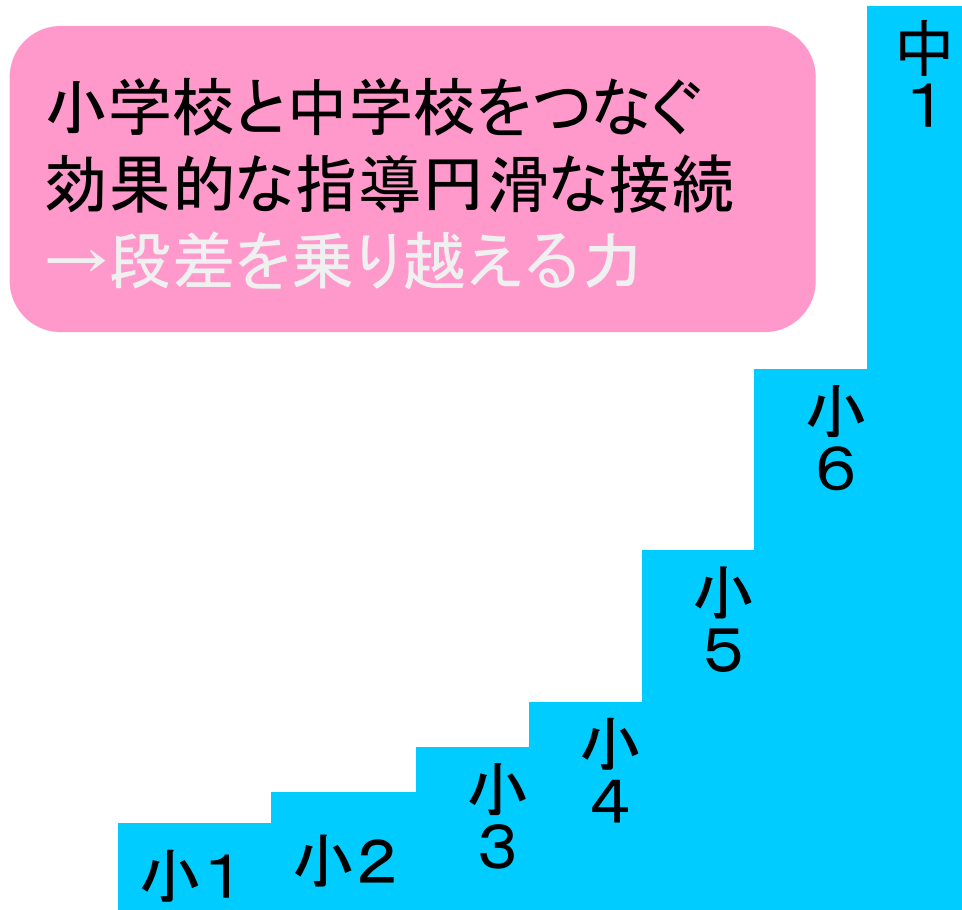
- ① 中学校の授業では、教科によって先生
- ② 授業の進め方が違うこと
- ③ 新しい教科（英語など）の内容が難し
- ④ 定期テストのこと
- ⑤ 学校生活のきまりが違うこと
- ⑥ 部活動の練習が厳しいこと
- ⑦ 友達との人間関係づくり
- ⑧ 先輩との人間関係づくり
- ⑨ その他
- ⑩ 特になし



1 子供たちの意識



小中連携

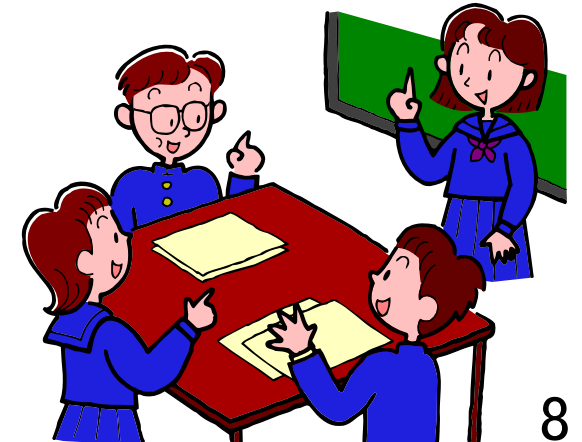


2 なぜ小中連携なのか

小学校から中学校に進学する際の接続が
円滑なものになっているのか

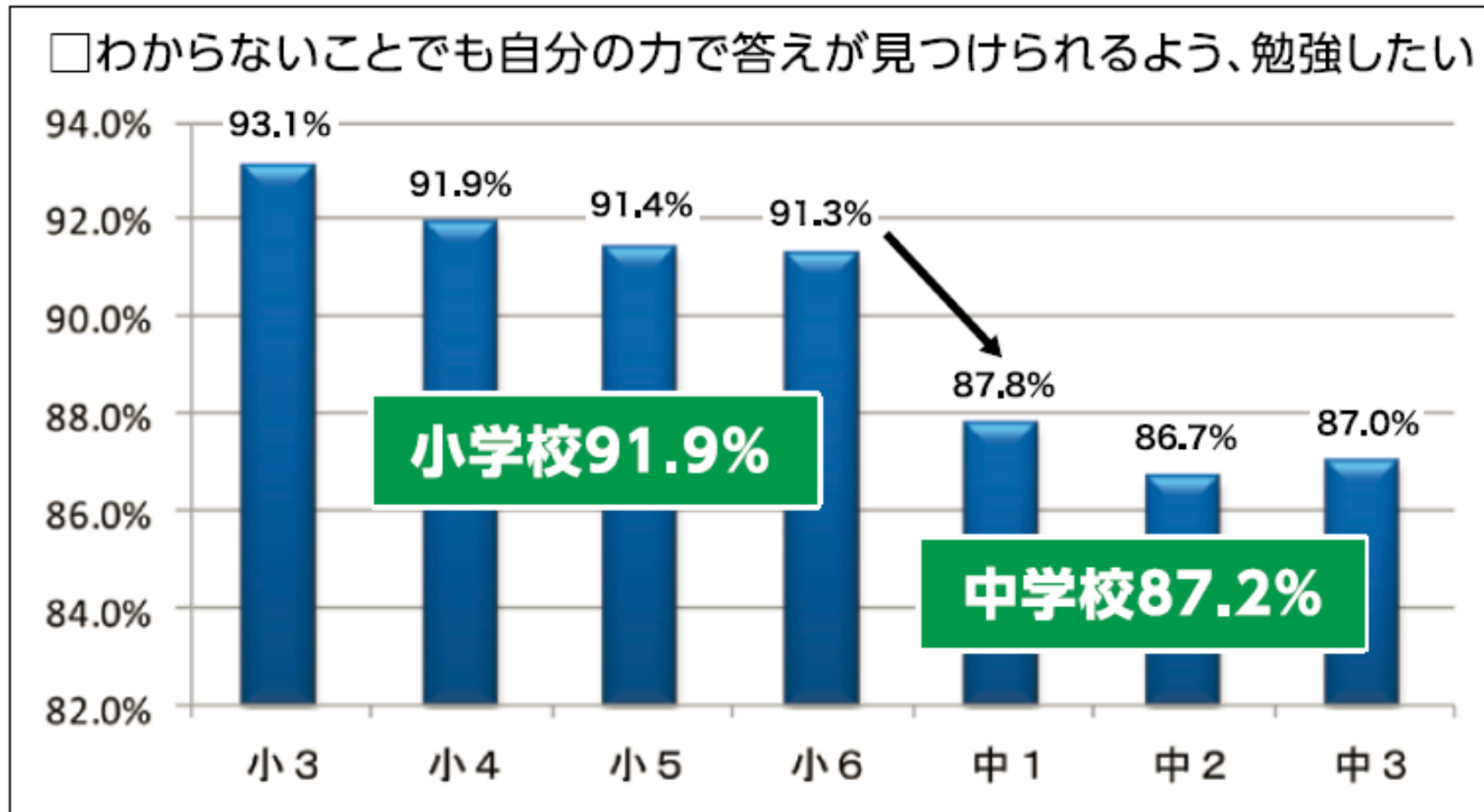
- 学習指導面
 - 授業形態の違い
 - 学習指導上の課題の共有

- 生徒指導面
 - 生徒指導上の課題の共有
 - 生徒指導の方法の違い



2 なぜ小中連携なのか

埼玉県に見られる課題①



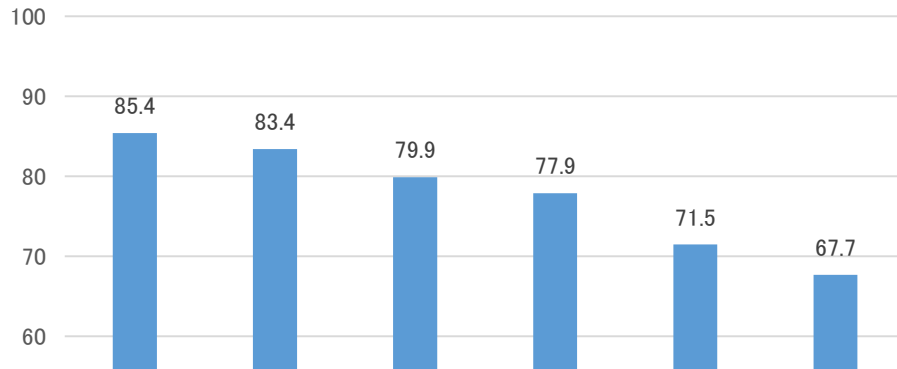
平成24年度 児童生徒を対象とした質問紙調査
「教育に関する3つの達成目標」の取組に係る効果の検証結果

2 なぜ小中連携なのか

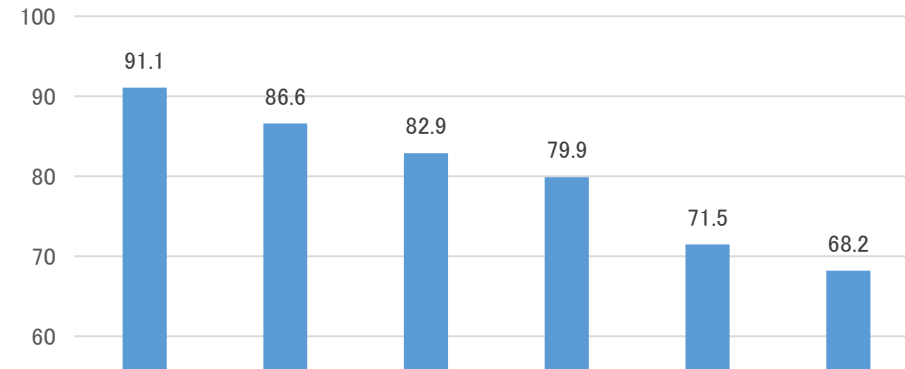
埼玉県に見られる課題①

埼玉県学力・学習状況調査（質問紙）

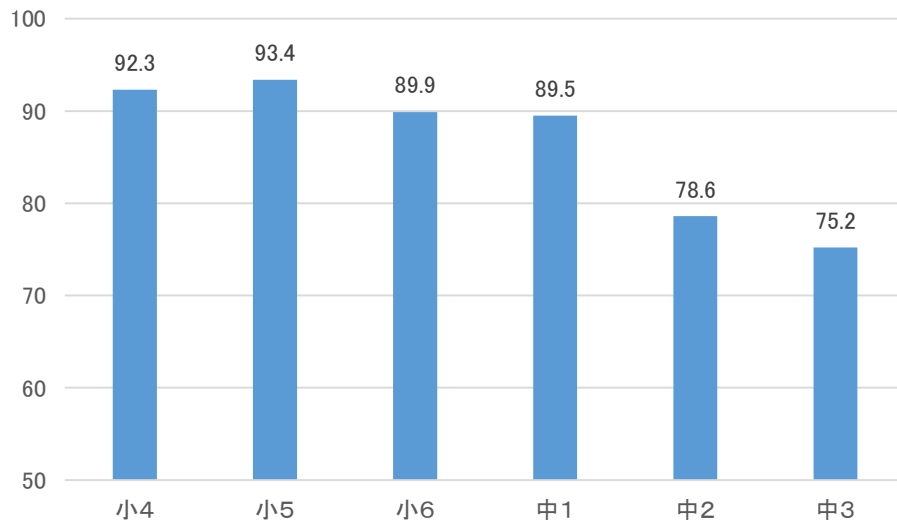
自分にはよいところがある



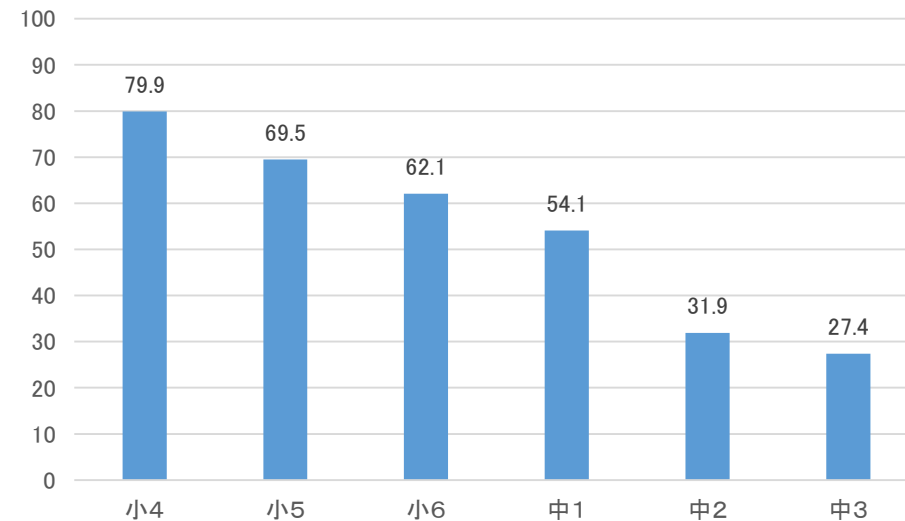
難しいことに挑戦する



将来の夢や目標がある



勉強はすき

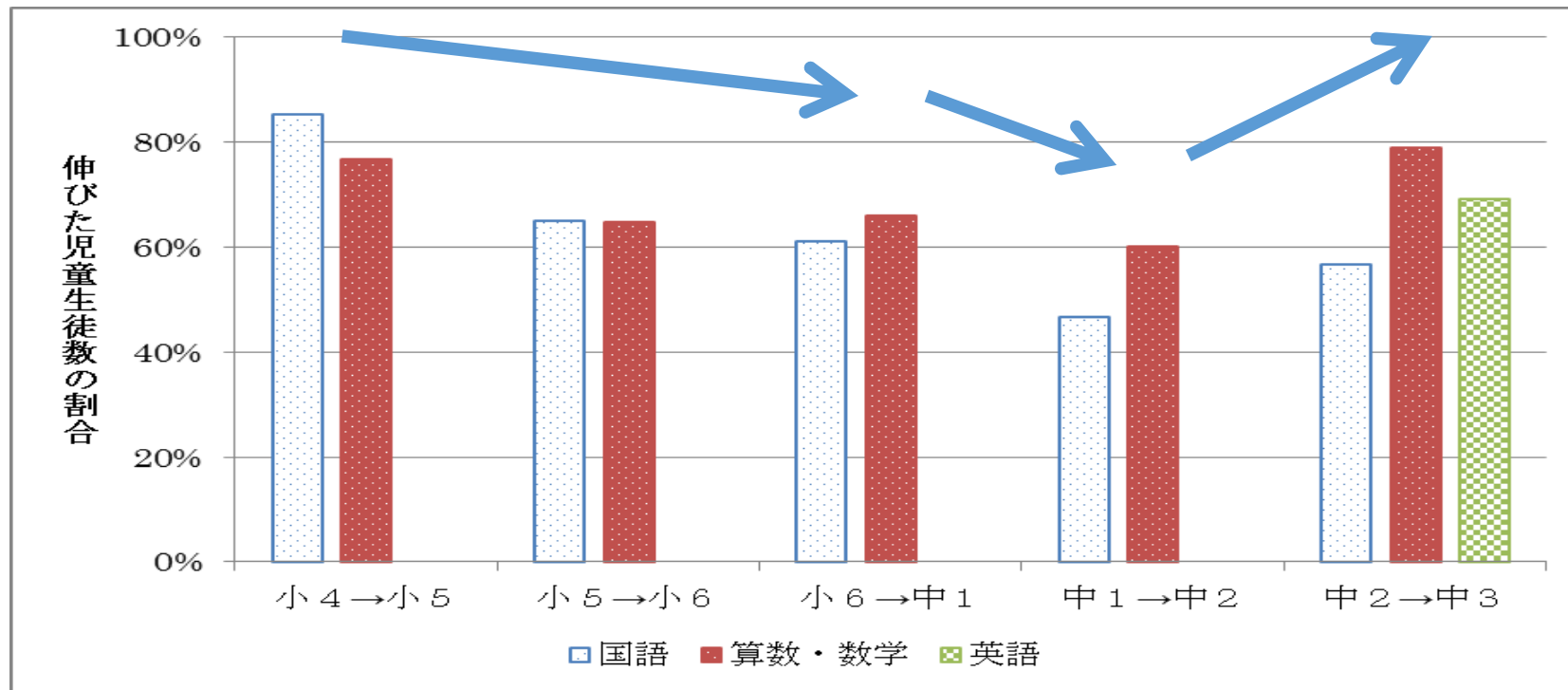


2 なぜ小中連携なのか

埼玉県に見られる課題②

県学調結果「学力の伸び」の状況

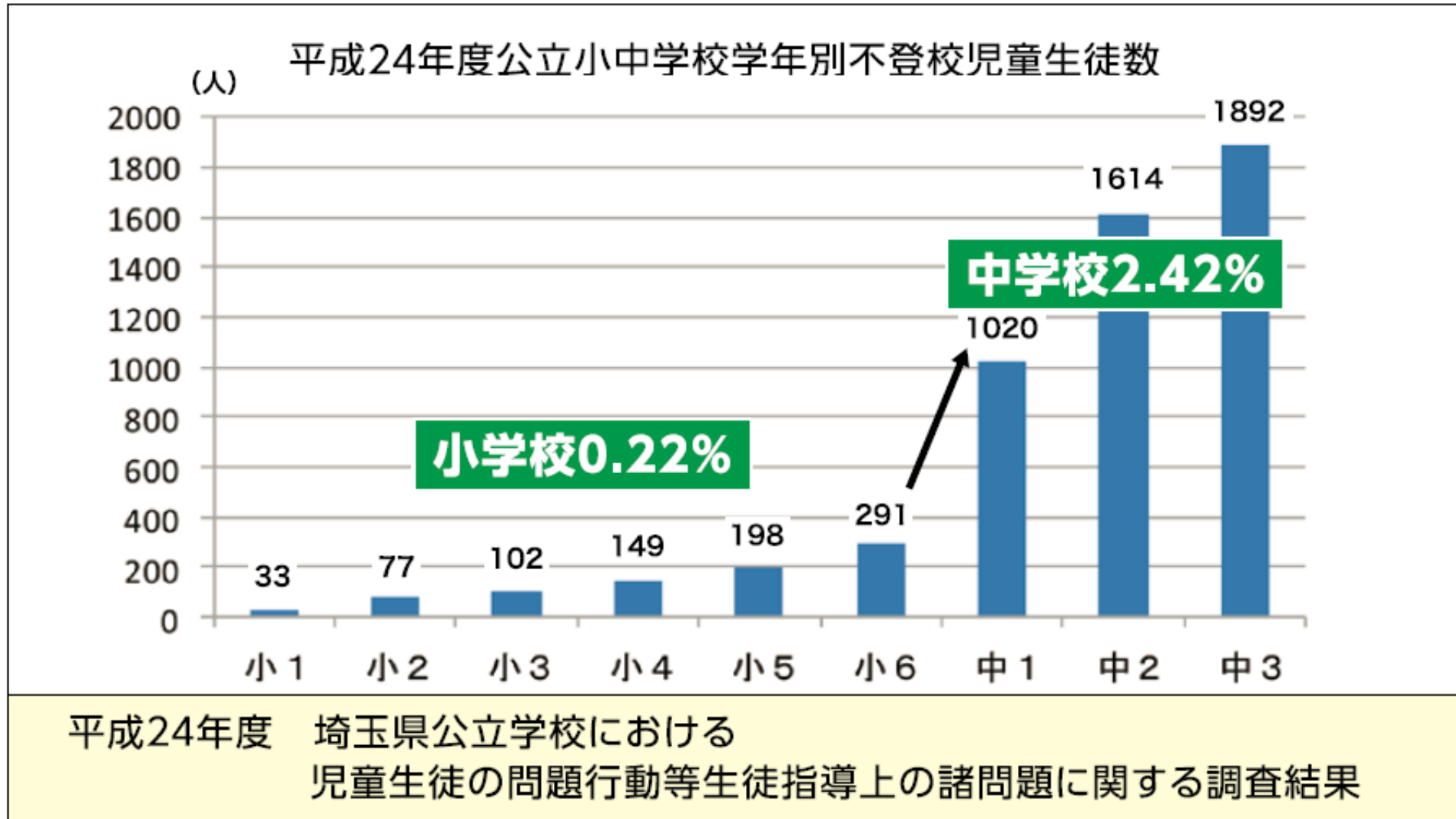
中学校第1学年の1年間で、特に伸び悩む生徒が出やすい



| 教科 | 小4→小5 | 小5→小6 | 小6→中1 | 中1→中2 | 中2→中3 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 国語 | 85.4% | 65.1% | 61.2% | 46.6% | 56.6% |
| 算数・数学 | 76.8% | 64.9% | 66.1% | 60.2% | 79.0% |
| 英語 | — | — | — | — | 69.1% |

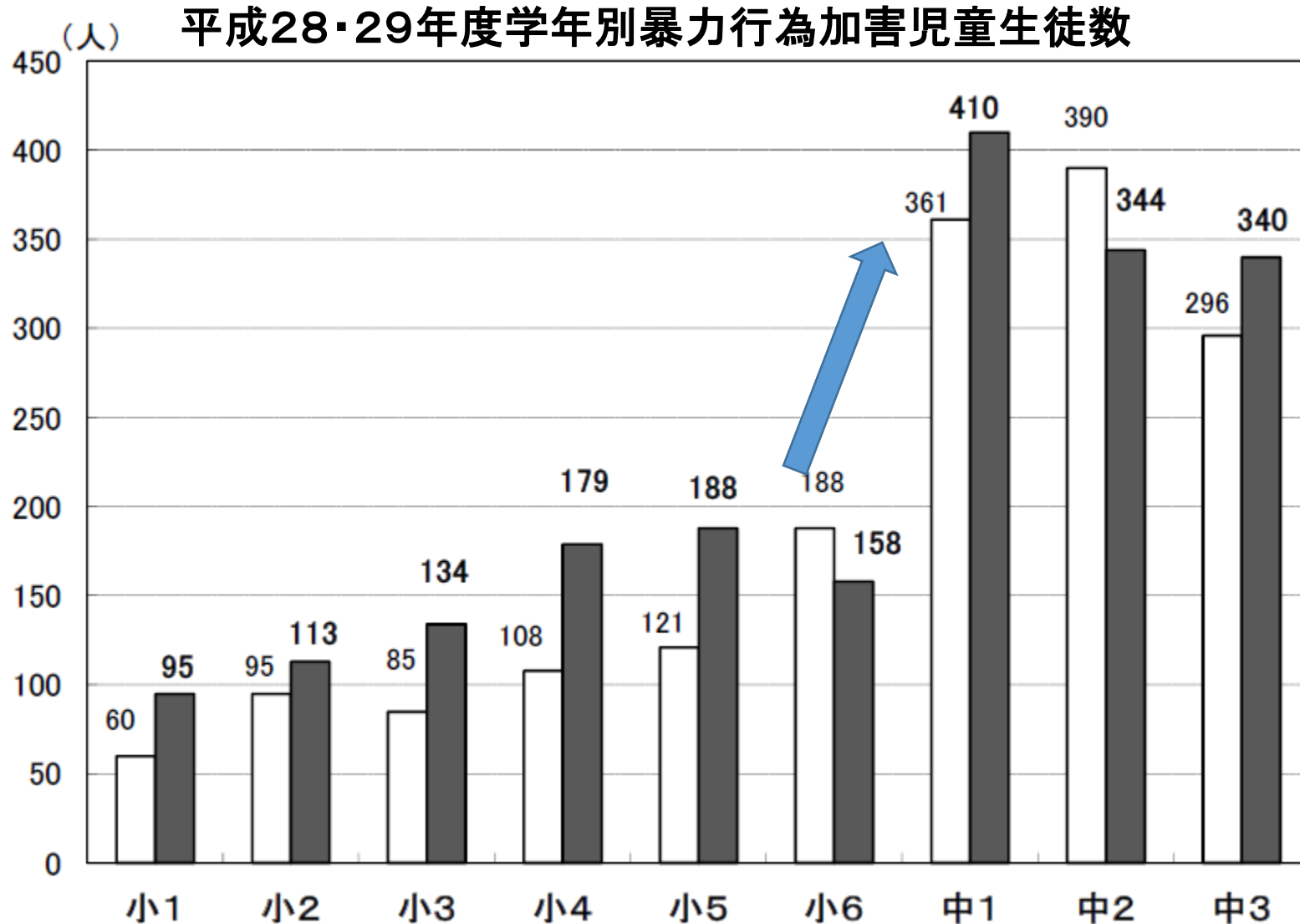
2 なぜ小中連携なのか

埼玉県に見られる課題③



2 なぜ小中連携なのか

埼玉県に見られる課題④



3 小中連携とは

○「小中連携」

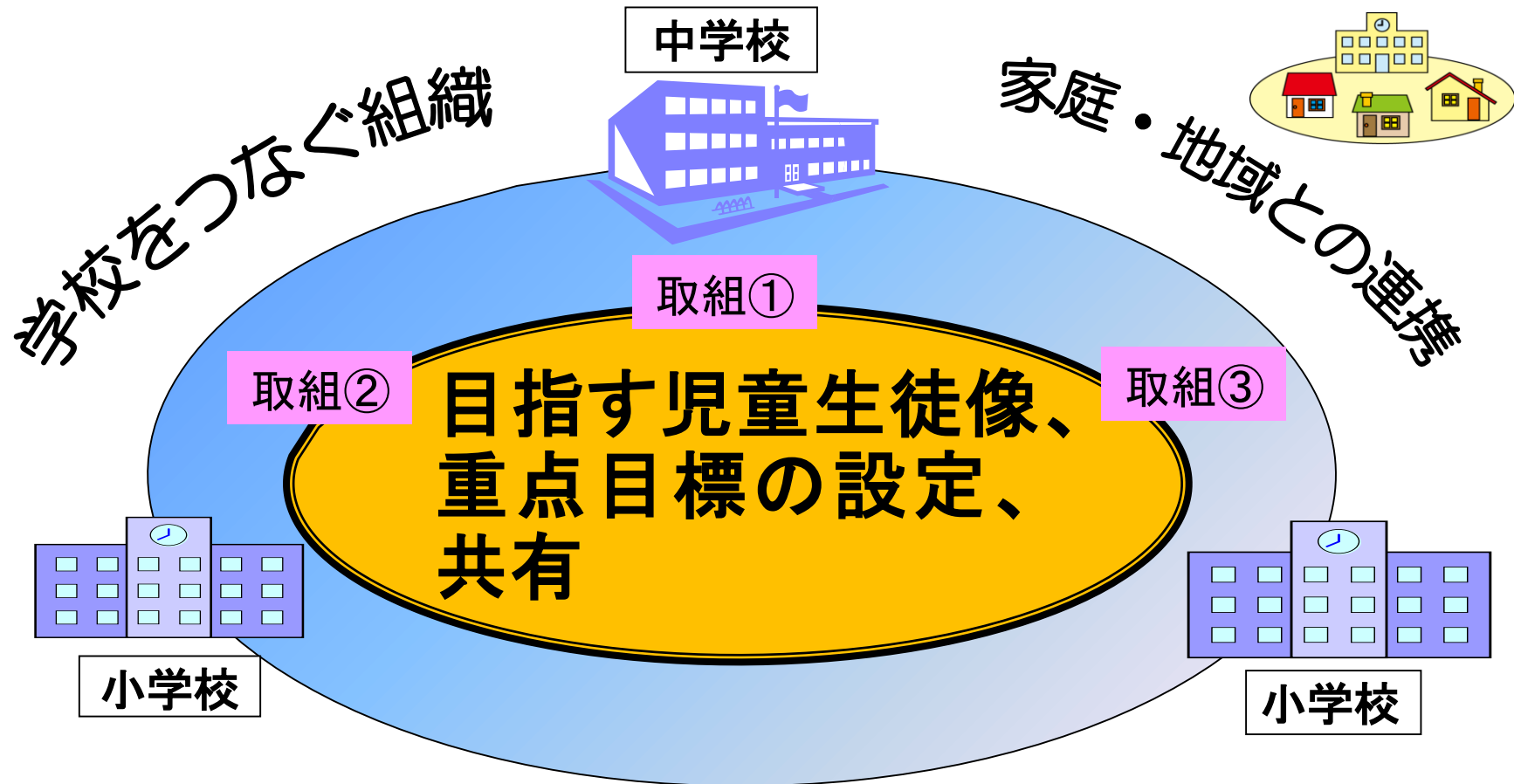
小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、**小学校教育から中学校教育への円滑な接続**を目指す
様々な教育

○「小中一貫教育」

小中連携のうち、小・中学校が**9年間を通じた
教育課程**を編成し、それに基づき行う系統的な教育

3 小中連携教育とは

小中連携



3 小中連携とは

学校段階の円滑な接続

小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育

【ねらい】

小・中学校9年間を支える
教職員の意識高揚

学習意欲の向上

中1ギャップの解消

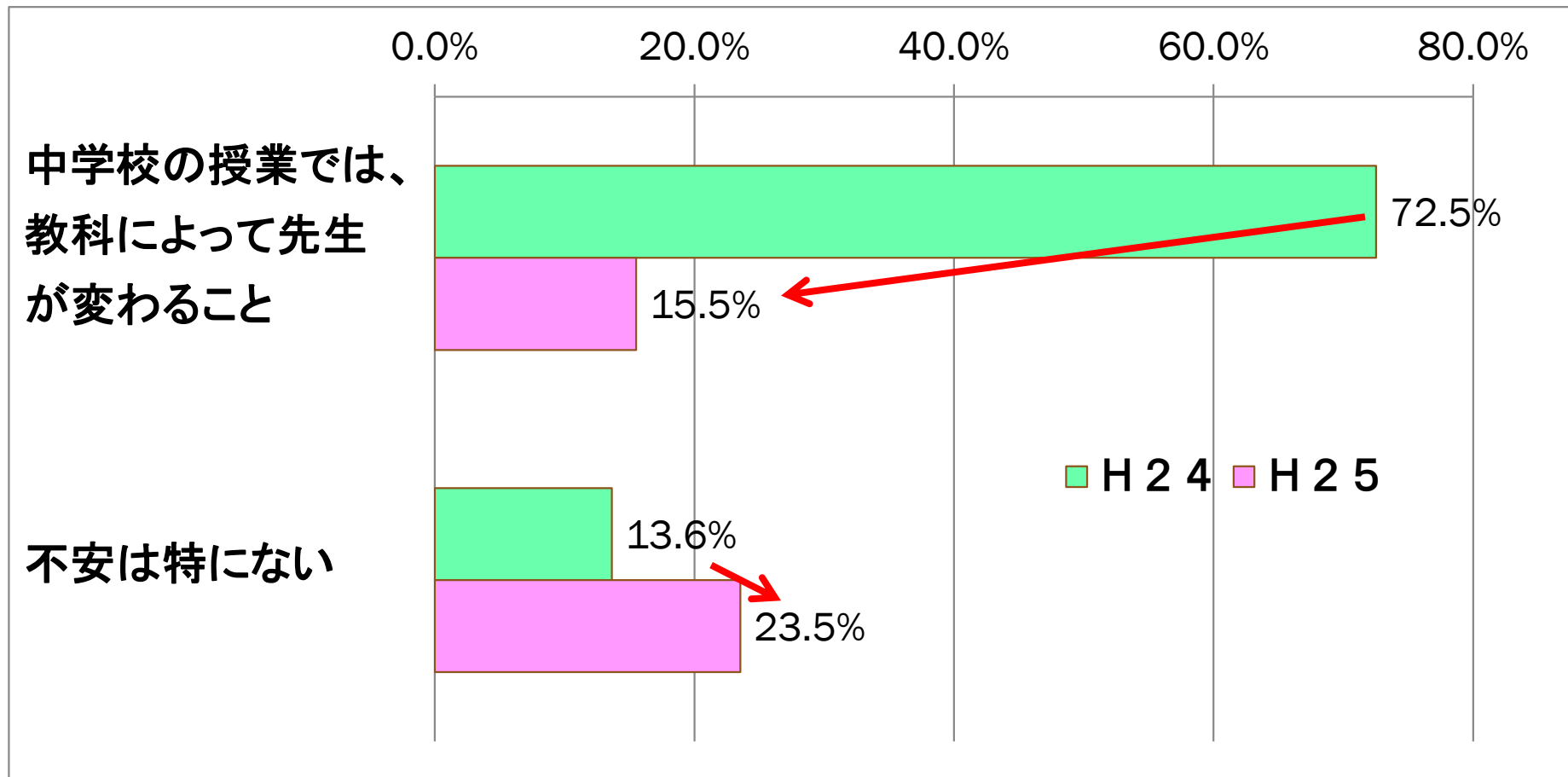
確かな学力の育成

豊かな心の育成

3 小中連携とは

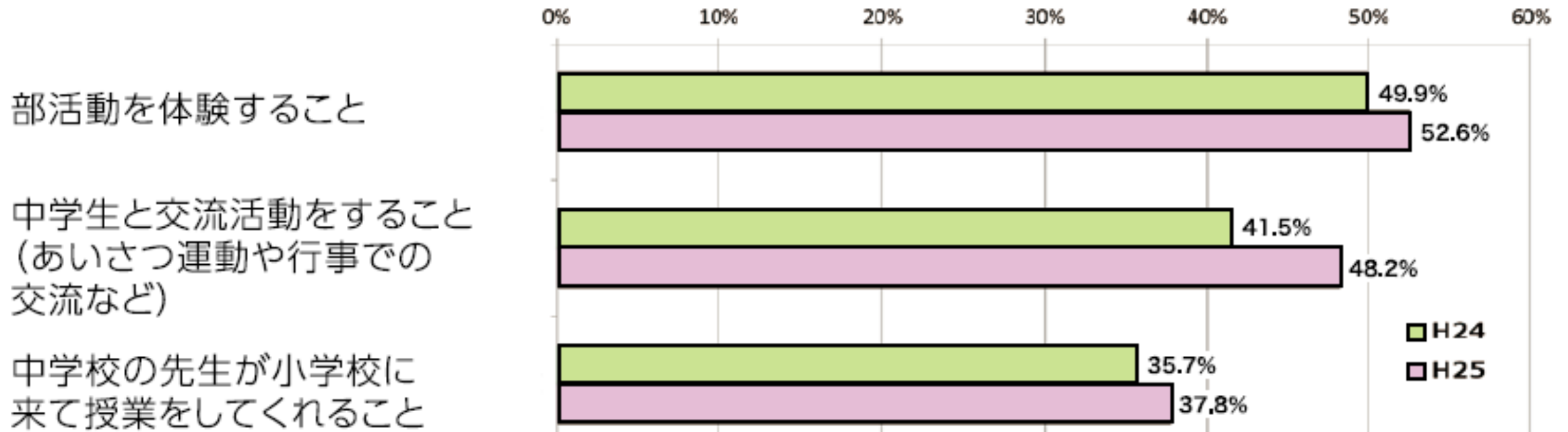
中学校入学前に小学生が抱く不安

(モデル地区 中学校1年生 意識調査)



3 小中連携とは

小学生の時に体験しておくと思うもの

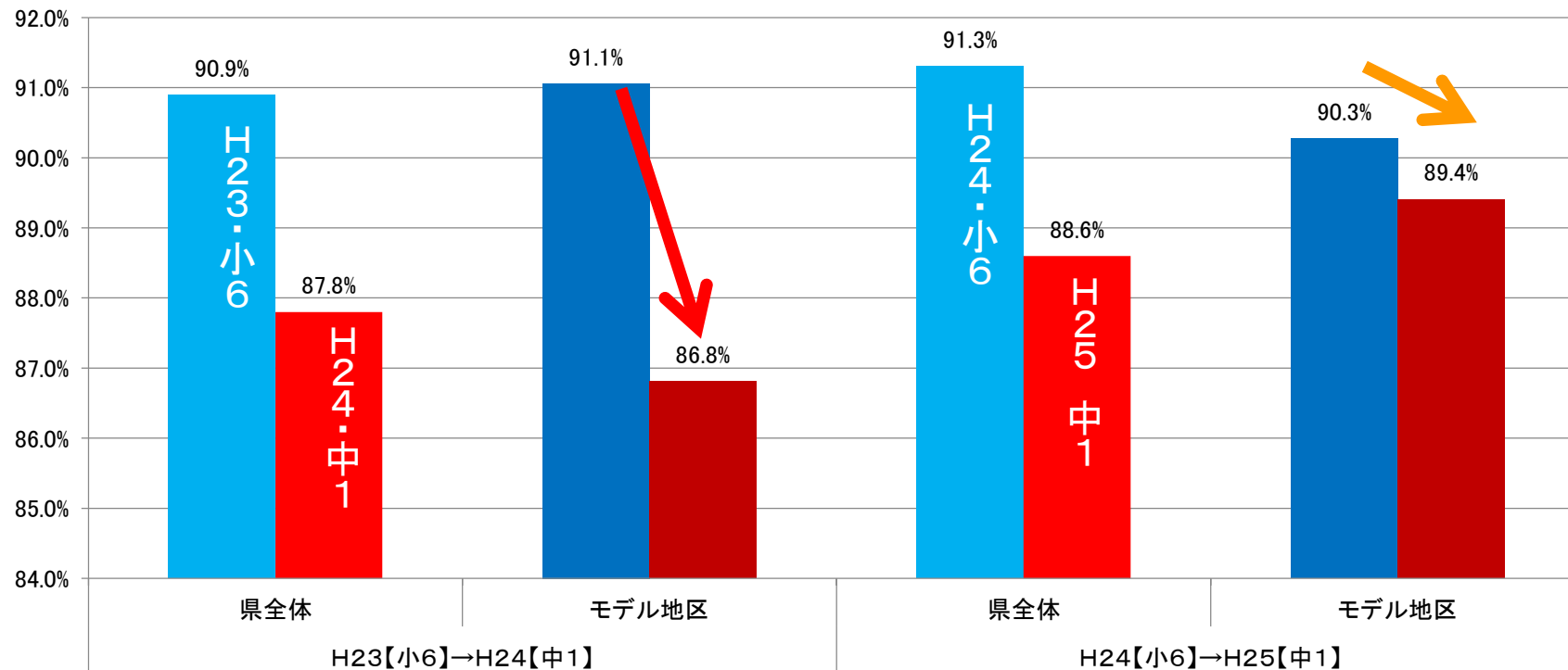


3 小中連携とは

成果 子供の学習意欲

○「わからないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい」(モデル校8地区)

H23 事業開始前 H24 事業1年目 H25 事業2年目



4 小中連携のポイント

I

小中連携推進のための組織をつくる

II

中学校区の目指す児童生徒像、重点目標を設定、共有する

III

教員の意識をつなぐ

IV

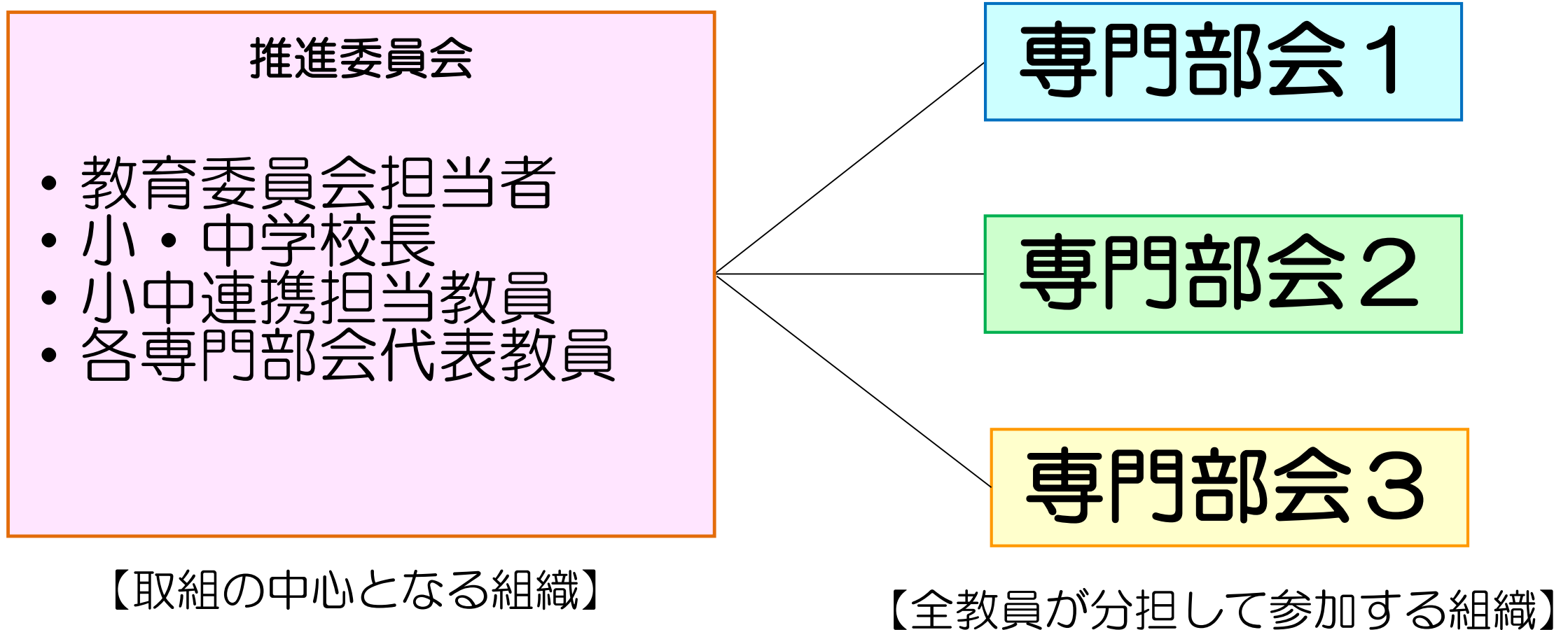
児童生徒の心をつなぐ

V

指導の一貫性の確保

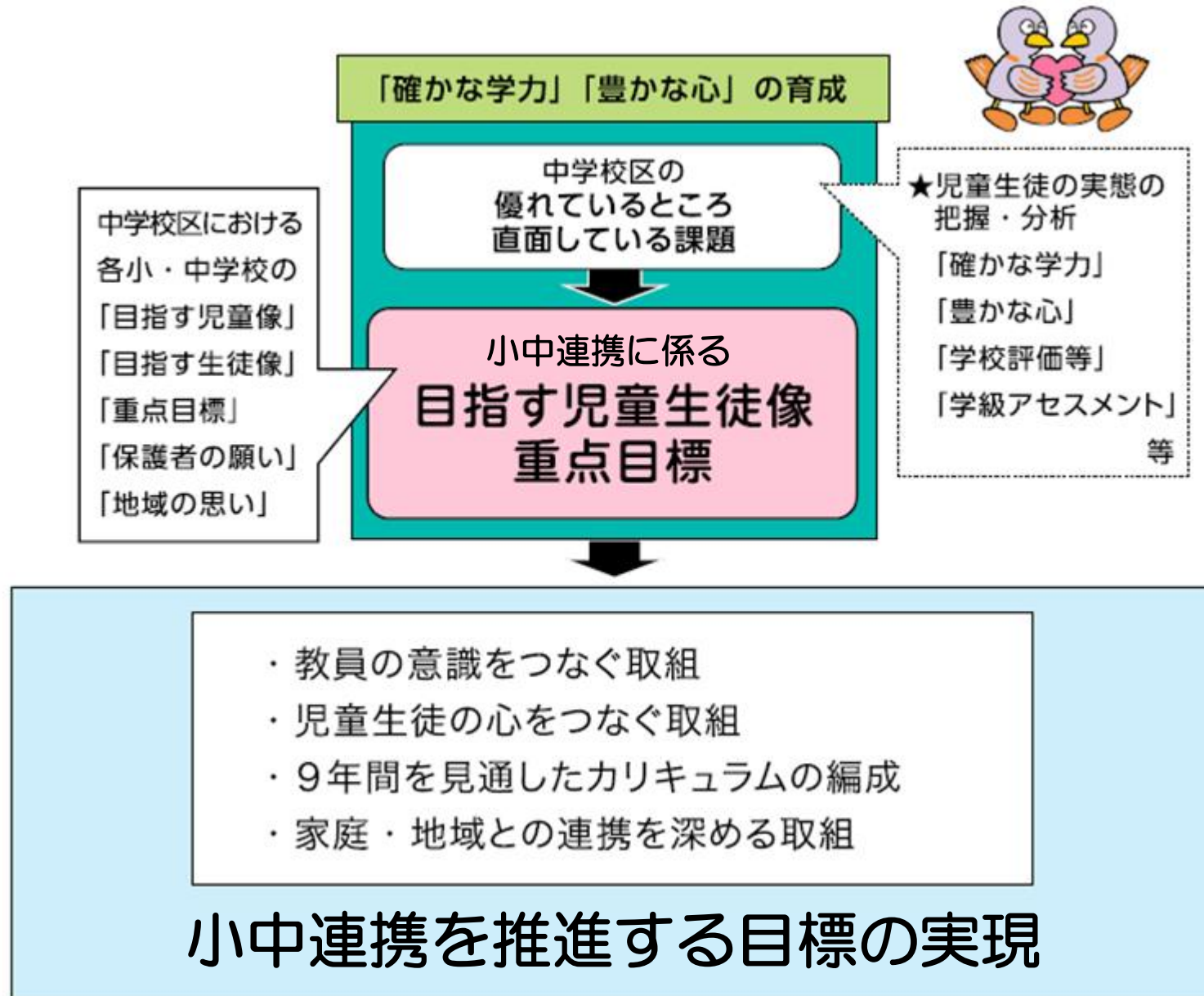
I

小中連携推進のための組織をつくる



II

中学校区の目指す児童生徒像、重点目標を設定、共有する



II

中学校区の目指す児童生徒像、重点目標を設定、共有する

児童生徒の実態を把握する

○「学力・学習状況調査の活用」

- ・設問別結果や観点別結果から
- ・児童生徒質問紙調査から

○「教育活動に関する学校評価等の活用」

- ・学校評価の項目を小中で統一するなどの工夫
- ・自己評価、学校関係者評価から思いや実態を把握

○「各種アンケート調査結果の活用」

- ・中学校区の課題を明らかにする

II

中学校区の目指す児童生徒像、重点目標を設定、共有する

「目指す児童生徒像」「重点目標」

共有

- ① 中学校区の合同研修会、専門部会で共通理解する。
- ② 各学校の経営方針、ランドデザイン等に明記し、常に意識できるようにする。

共有にあたっては、次の内容も共通理解していくことが必要です。

- ① 「目指す児童生徒像」や「重点目標」が導き出された理由
 - ア 小・中学校の児童生徒の実態（「優れているところ」や「直面している課題」）
 - イ 小・中学校で共通している実態
- ② 今後、どのような対策を中学校区で行っていくのかの方向性
 - ア 重点化すべき「教科等」や「内容」、「観点」等
 - イ 中学校区で共通に行っていくべき「一貫した指導」やそれを構築するための道筋



Question

- ①板書・発問がきめ細かく丁寧なのは小学校である。
- ②宿題を多く出しているのは、小学校である。
- ③細かいところまで気を配って子どもに接しているのは、小中学校とも同じである。
- ④子どもの情報が職員室で話題となり、情報がつかみやすいのは中学校である。
- ⑤子どもの問題について、全校態勢で指導を行うのは、小中学校とも同じである。
- ⑥家庭で予習をしてくる習慣が身に付いているのは、中学校である。
- ⑦校内研修会は小中学校とも、月1回以上行っている。
- ⑧中学校に入ってからの不登校は、中1ギャップが大きく影響する。
- ⑨学力と不登校には因果関係がある。
- ⑩最高学年としてのリーダー性を身に付けさせるためには、小学校6年生と中学校3年生でそれぞれそのチャンスをつくってあげることが大切である。

1 小・中合同研修会

共通理解を図りましょう

- 目指す児童生徒像、重点目標の共有化を図る。
- 専門部会での取組を共有する。

- 先進地区や大学等から講師を招き、小中一貫教育のよさや取組の実際についての研修会等を実施する。

- 児童生徒の学習や生活、交流活動の様子から検討した課題や取組の見直しを共有化する。

○実施の手順（事前・事後を含む）

- ① 日程調整
- ② 推進委員会による計画作成
- ③ 指導者招聘
- ④ 研修会資料作成
- ⑤ 研修会のまとめ、次回の計画

○課題解決の手立て

- ・当初の研修会では、小・中学校の教員が互いを理解することをねらいとする。
- ・教員の負担増にならないよう、各学校が実施している研修を基本にして中学校区の小・中学校に広げて実施する。

Ⅲ

教員の意識をつなぐ

「お互いの良さ」を見つける

III

教員の意識をつなぐ

2 小・中合同授業研究会

「互いのよさ」を見つけましょう

○各学校が実施する授業研究会や授業参観日の授業を参観し、授業参観記録用紙に感想等を記入し授業者に渡す。

○小・中学校が交互に合同授業研究会を実施する。研究協議では、小・中の教員が小グループで話し合う。

○小・中学校の教員が小・中の系統性を考慮して合同で指導案作成を行い、授業研究会を実施する。

○実施の手順（事前・事後を含む）

- ① 日程調整
- ② 専門部会による計画作成
- ③ 指導案作成・検討
- ④ 授業研究会実施
- ⑤ 授業研究会のまとめと次回の計画

○課題解決の手立て

- ・当初は、小・中学校での指導方法の違いやよさ、児童生徒の学習や生活の状況を理解することをねらいとする。
- ・各教科等の系統性を確認し、9年間を見通した学習指導について検討する。

コパトンのびのびシート

【年・組・氏名】 6年1組1番 埼玉 コパトン

1

| 教科 (1学期) | 年度 | | 正答率 | レベル | 伸び | 話す聞く書く | 読む | その他の学習力 算数に特化した学習力 |
|-------------|-----|------|------|----------|----------|--------|------|-----------------------|
| | 国語 | H30 | 63.3 | 6-B | 3 (1) | 25.0 | 88.9 | 58.8 |
| 算数 | H30 | 40.3 | 5-C | 0 (2) | 36.4 | 42.9 | 57.1 | 28.6 |

4

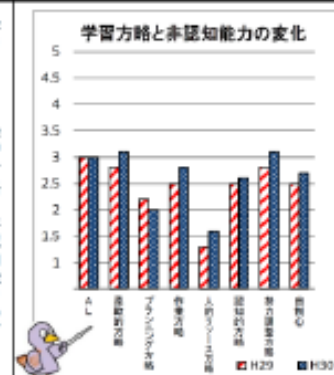
2

| 項目 | 内容 | H30 | 変化 |
|------------|-------------------------------|-----------------------------------|----------|
| AL | 「主体的・対話的で深い学び」ができていたか | 3.0 | 0.0 |
| 学習方法へ学習方略～ | 柔軟的方略 | 学習の進め方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動 | 3.1 0.3 |
| | プランニング方略 | 計画的に学習に取り組む活動 | 2.0 -0.2 |
| | 作業方略 | ノートに書いたり、声に出したりといった作業を中心に学習を進める活動 | 2.8 0.3 |
| | 人的リソース方略 | すぐにやり方や答えを聞かずに学習を進める活動 | 1.6 0.3 |
| | 認知的方略 | より自分の理解度を深めるような学習活動 | 2.6 0.1 |
| 努力調整方略 | 「苦手」等の感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 | 3.1 0.3 | |
| 非認知能力 | 自 利 心 | 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 | 2.7 0.2 |

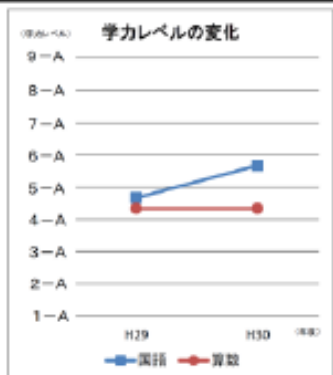
5

3

学習方略と非認知能力の変化



学カレベルの変化



4

1

| 年度 | 正答率 | レベル | 伸び | 数と計算 | 量と測定 | 図形 | 数量関係 |
|-----|------|-----|----------|------|------|------|------|
| H30 | 63.3 | 6-B | 3 (1) | 25.0 | 88.9 | 58.8 | |
| H29 | 40.3 | 5-C | 0 (2) | 36.4 | 42.9 | 57.1 | 28.6 |

5

1

| 実力テスト(国語) | 国語 | | | | | | 算数 | | | | | |
|-----------|----|----|----|----|----|-----|------|------|----|------|------|------|
| | 話す | 聞く | 書く | 読む | 漢字 | その他 | 数の計算 | 量と測定 | 図形 | 数量関係 | 計算関係 | 文章関係 |
| 国語 | 78 | 87 | 40 | 87 | 89 | 90 | 67 | 55 | 50 | 45 | 70 | 40 |
| 算数 | 88 | 68 | 56 | 80 | 88 | 97 | 70 | 66 | 66 | 50 | 80 | 45 |

5

1

| 内容(特筆すべき質問項目を記入) | H30 |
|-----------------------------------|-----------------|
| しよ米の夢や目標を持っていますか | どちらかといえば、持っていない |
| 学校の授業の予習や復習をしていますか | どちらかといえば、している |
| 家の人(兄弟姉妹はのぞきます)と学校での出来事について話をしますか | どちらかといえば、話さない |

5

1

書くことが苦手です。すらすらと文章を書くことができない。そのため、作文を書くときには、構成がうまくたてられるように、事前に作文メモを作成させてから、作文を書くようにさせた。今後、作文メモを作成しなくても、自分で構成を組み立てて書くことができるように支援していく必要がある。

5

1

全体的に算数を苦手としている。特に文章問題に苦手意識があるため、見ただけですぐにあきらめてしまう。そのため、問題を理解しやすく図で表し、ヒントカードを渡し、最後まで一人でできるように支援した。今後、たくさん問題を解かせ、自信を付けさせることが必要である。

5

1

苦手なことでもあきらめずに最後までやるように、励ましながら支援した。今後たくさんさんの場面で優めることをしていく。

5

1 2 はデータがそのまま反映される。 **3** は選択したものが反映される。 **4 5** は入力する。

Ⅲ

教員の意識をつなぐ

コバトンのびのびシート
の活用

コバトンのびのびシートとは

埼玉県の学力・学習状況調査や市町村や学校で行っている調査等に加え、授業から把握できる伸ばしたいところを一元化して表示し、児童生徒の実態に応じたより効果的な支援方法を見だし、日頃の授業等における指導方法の工夫・改善に生かすことができ、次年度に引き継ぐことができるシートです。

イメージは、
「カルテ」



IV

児童生徒の心をつなぐ

「人間関係づくり」を進めていきましょう

○小・中学生が共に参加する合同花植え運動を実施する。

○中学校区にある小学校で、中学生による職業体験を実施する。

○小学校学習会で中学生による学習支援を実施する。

「学校生活の見通し」をもたせましょう

○小学生の陸上大会前の放課後に、陸上部の生徒と合同練習を実施する。

○小学校のクラブ活動で中学生との合同練習を実施する。

○中学校入学説明会での部活動体験会（見学を含む）を実施する。

行事やイベントを通じた交流の実施

異学年交流で
できることは？

- ・中学生による小学生への学習支援
- ・中学校入学前の部活動体験
- ・小・中合同避難訓練
- ・朝の挨拶運動
- ・運動会、体育祭への参加 など

アイディア次第でいろいろな広がりが期待できます

「学校生活の見通し」を持たせる

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 | 中学 |
|--------------|---------------------|-----------------|--------------|---------------------|
| ◎時刻を守る | ・チャイム着席 | ・自分の席でチャイムを待つ | | ・5分前行動 |
| ◎あいさつ | ・大きな声であいさつ | | ・進んであいさつ | |
| ◎へんじ | ・授業のはじめとおわりは気を付けをする | | | |
| ◎はきもの そろえ | ・下駄箱のかかとをそろえる | | | |
| | ・トイレのサンダルをそろえる | | | |
| ◎清掃 | ・開始の時刻を守る | | | |
| | ・時間いっぱいそうじする | | | |
| | ・もくもくそうじ | | | ・無言清掃 |
| ◎廊下歩行 | ・静かに右側を歩く | | | |
| ◎服装 | ・通学帽子をかぶる | | | ・制服を 正しく 着用する |
| | ・体育着の裾をしまう | | | |
| | ・清掃の際は三角巾をかぶる | | | |
| | ・名札をつける | | | |
| ◎家庭学習 | ・宿題 | ・宿題 ・簡単な自主学習 | ・宿題 ・自主学習 | ・宿題 ・予習復習 |

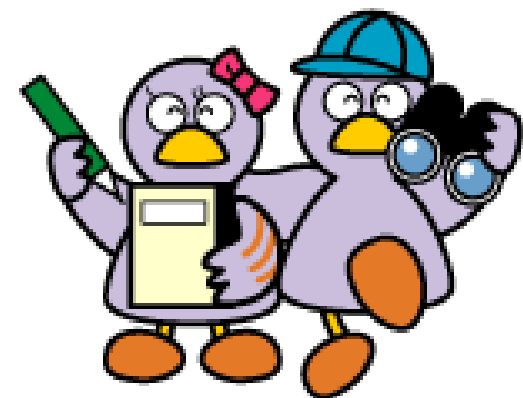
学習規律・生活規律の設定（授業前後）

- ①教室移動の際のルール
- ②着替え
- ③チャイム着席・机上の準備
- ④授業開始時・授業終了時の挨拶



学習規律・生活規律の設定（授業中）

- ①正しい姿勢，起立・着座の仕方
- ②やむを得ず離席する場合のルール
- ③忘れ物の申告のタイミング・方法
- ④話の聴き方、挙手の方法
- ⑤級友の名前の呼び方、指名されたときの返事
- ⑥机上の用具の置き方、ノートの取り方
- ⑦私語の禁止教室移動の際のルール

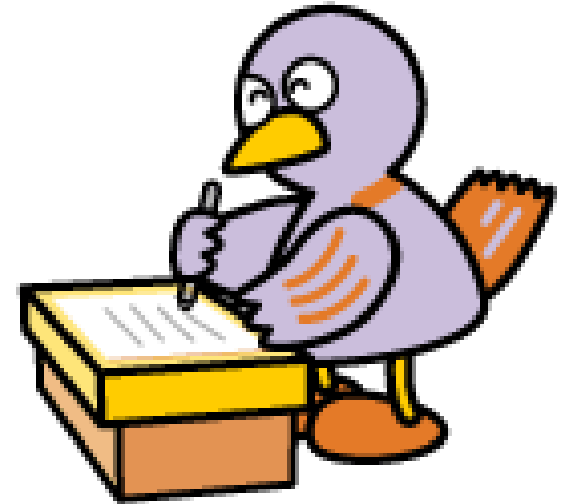


IV

児童生徒の心をつなぐ

学習規律・生活規律の設定（持ち物、教育環境整備など）

- ①机の上に置いて良い持ち物
- ②使用を許可する文房具
- ③学校に持ってきて良いもの
- ④用具への記名
- ⑤掲示物の内容・掲示場所
- ⑥清掃の方法・徹底の度合い
- ⑦ロッカーや机の引き出しの使い方，机のフックの使い方
- ⑧靴箱の使い方、傘の立て方、給食の支度・片付け



小・中教員によるチームティーチングは、児童生徒の安心感を生みます!

- 中学校の教員が小学校6年生への「乗り入れ授業」を行う。
(中学校教員の免許教科の授業)
- 小学校担任と、TTで授業を行う。

- 小・中学校でチームティーチングを実施する教科を決めて、計画的に実施する。

- 小・中の教員が教科の学習の系統性を確認し、見通しをもった学習、既習事項を活用した学習を展開する。

○実施の手順（事前・事後を含む）

- ① 実施教科の決定
- ② 小中一貫教育コーディネーターによる日程調整
- ③ 指導内容、役割分担等の確認
- ④ 児童生徒理解のための情報交換
- ⑤ 授業後の反省、次回の計画

○課題解決の手立て

- ・小・中学校教員が互いの教育課程を理解した上で、指導の在り方、役割分担等について、あらかじめ検討しておくことで、より教育効果を上げることができる。
- ・電子メールやFAX等を活用して連絡を取り合うなど、教員の負担軽減を図る。

小・中学校教員によるチームティーチングの成果

の軽減
中一ギャップ

児童にとっては、中学校教員に教わることにより、中学校における学習への興味・関心を高め、学習の楽しさを体験するとともに、中学校への進学に伴う不安を軽減する効果につながります。

また、中学校に進学した生徒にとっては、小学校当時から知っている教員とかわかることで、学習意欲や生活態度への自覚が高まる効果につながります。

の向上
学習意欲

小学校の児童は、中学校教員の専門性を生かした指導により、満足感を味わうことができます。また、中学校の生徒は、生徒の学力等の実態をある程度把握している元担任等から、生徒の実態に即した指導・助言を受けることができ、学習意欲の向上につながります。

系統的な指導
授業改善

異校種の学校での授業実践を通して、学校相互の指導内容や児童生徒の実態、指導や授業の進め方、校内や教室の環境等への理解を深めることができます。

また、異校種の教員による児童生徒へのかかわり方についても相互理解を深め、授業改善に生かすことができます。

さらに、小・中学校の教員が、互いの学習内容を確認し、既習事項を活用した系統的な指導が行えます。



授業における指導(指導方法等)

- ① 既習事項の確認
- ② 学習のめあて・目標の明確な提示
- ③ 教員の説明, 自力解決, ペアやグループでの交流, 全体交流, 問題演習
- ④ 授業終末の学習のまとめと振り返りの時間
(理解できたことと
理解できなかったことの整理)

V

指導の一貫性の確保

授業における指導（指導方法等）

- ① 効果的な**ペア学習**や**グループ学習**の進め方
グループ分けのパターン, 机の配置の方法
- ② 発表の際のいわゆる「**話型**」指導や方法に関する考え方
- ③ 他の児童生徒が発言する際の聴き方
- ④ いわゆる「**思考ツール**」の活用





授業における指導(学習ノート指導の方法)

- ① 日付や**めあて**の書き入れ方
- ② **板書**と**学習ノート**との関係
(例: 学習ノートの形式に合わせて板書を行う等)
- ③ 自分の意見や他の児童生徒の**意見**の書き入れ方
- ④ 授業終末の**振り返り**の書き入れ方
- ⑤ 既習事項も含めた知識と知識の関連付けに役立つ
学習ノートの使い方
- ⑥ 教員によるノートの点検, **コメントの付け方**等

個別指導や家庭学習に関する指導(家庭学習)

「家庭学習の時間の目安」

※小学校段階では「学年×10分」

中学校段階では「学年+1時間」

を目安にしている学校が全国的にも多い

※なだらかに家庭学習の時間を長くしていくという工夫も

「自主学習ノート」や「家庭学習ノート」

※自主学習と教員が出す宿題の比率を学年ごとに決めて、義務教育9年間を見通して自主学習の時間を段階的に増やしていくといった工夫も

☆家庭学習については、早い段階からの習慣化が重要



V

指導の一貫性の確保

特別支援教育の充実(UDの視点による授業づくり)

教科等の教育と特別支援教育のコラボレーション

[通常の学級における授業]

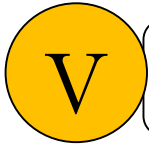
教科等の教育

教科等の本質を踏まえた授業構想

特別支援教育

困難を示す児童生徒に応じた効果的な支援





指導の一貫性の確保

特別支援教育の充実(UDの視点による授業づくり)

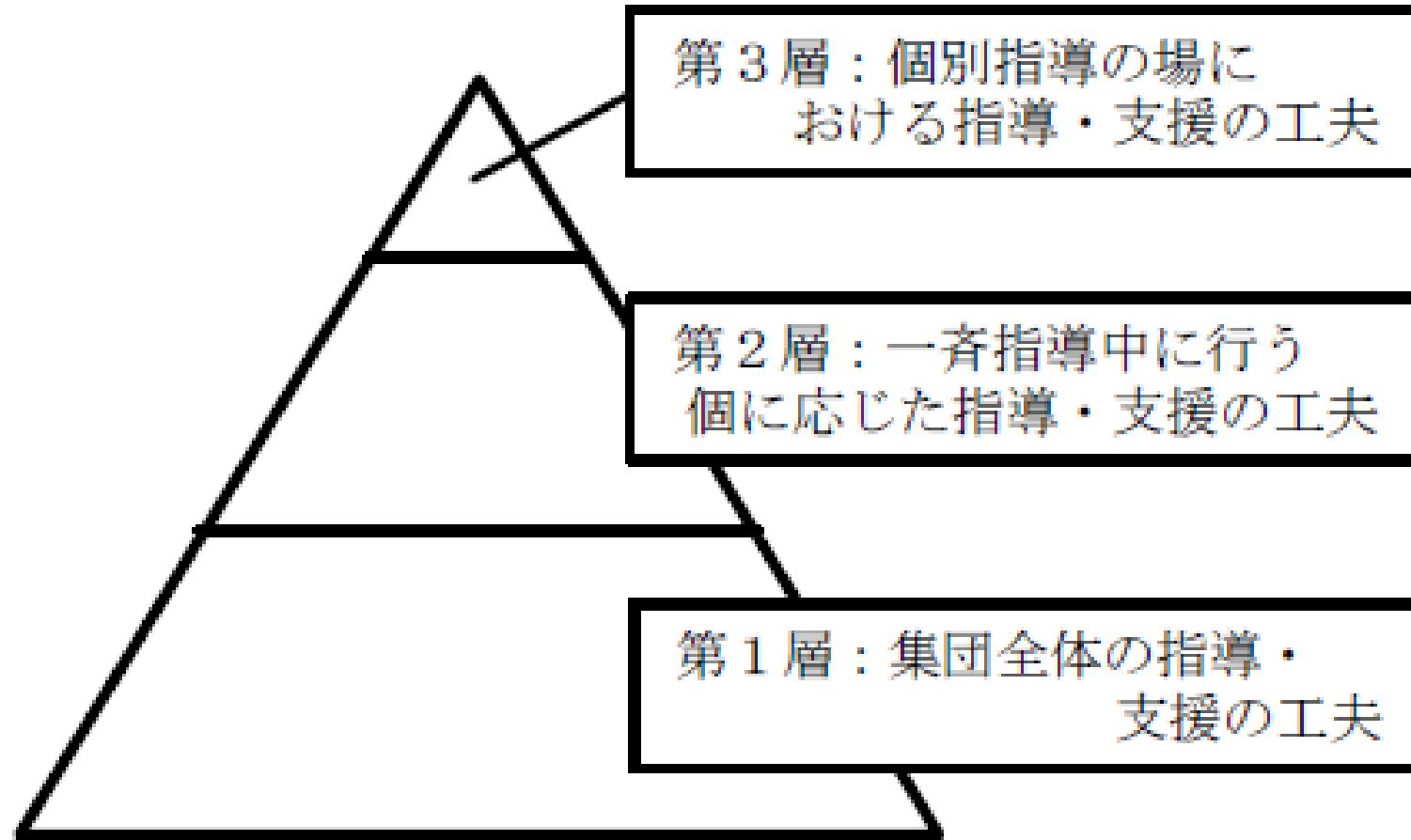


図 通常の学級に在籍する児童生徒の指導の階層性

4 小中連携の推進に向けて

学力・学習状況調査の活用

全国学力・学習状況調査

- 問題が公表されている
- 今求められている能力や授業をどのようにやっていくのかという視点で授業の仕方の内容を問題としている。
- 調査対象者が毎年違う

- 調査問題の分析・活用
- 学習内容定着の見届け
- 授業の改善・充実

県学力・学習状況調査

- 児童生徒一人一人の伸びや学校の伸びがわかる
- 調査対象者を継続してみることができ
- 問題が公表されていない

- 調査結果の分析
・学力の伸びと学校の取組や指導との関係
- 一定期間に実施された取組や指導の成果を客観的に把握
- 学力を伸ばした指導方法を共有し授業改善・充実
- 質問紙調査から実態把握
(分析支援プログラムの活用)



埼玉県マスコット
コバトン
さいたまっち

4 小中連携の推進に向けて

全国学力・学習状況調査の活用

2 H27数学A

(2) 赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは a cm です。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍です。

白いテープの長さを求める式を書きましょう。

正答率
24%

小学校
図よりも式の方ができているのは？
中学校
正答率が小学校よりも低い理由は？



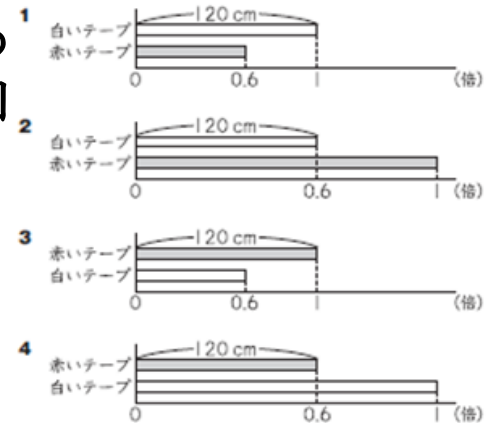
3 H24算数A

赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは 120 cm です。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの 0.6 倍です。

(1) 赤いテープと白いテープの長さの正しく表している図はどれですか。

正答率
34%



(2) 白いテープの長さを求める式を書きましょう。

正答率
46%

むすびに

小中連携は

「目的」ではなく「手法・手段」である

アイデア次第で

いろいろな広がりが期待できる

究極の小中連携は、小中
一貫教育である



ご清聴ありがとうございました



埼玉県マスコット コバトン